

## リモート判定等の活用促進に係る自治体へのヒアリング結果

## ドローン・360度カメラ映像を活用した判定

(ヒアリング先)  
珠洲市、熊本市

(課題)

- ・写真から傾斜による判定が可能か
- ・損害割合イメージ図を活用した部位による判定が妥当か 等  
(ヒアリング結果)

	効果的な点	課題がある点
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>一見して住家全部や一部の階が倒壊、流出等していることが写真から確認できる場合、全壊判定が可能。</u></li> <li>・<u>外壁、屋根の損傷程度が確認可能。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傾斜があること自体は確認できるが、<u>1/20以上の傾斜があるかの判定は困難。</u></li> <li>・<u>基礎の損傷程度や地盤面の亀裂の確認が困難な場合がある。</u></li> </ul>
ドローン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査員が立ち入れないような危険な箇所の調査において有効。</li> <li>・現地調査と比べ、屋根の損傷程度の確認が容易。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候、地形、電波、バッテリー容量等の制約により、軽微な損傷の確認に必要な解像度の高い写真の撮影が困難な場合がある。</li> </ul>
360度カメラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害認定調査に係る知識がない者でも容易に撮影が可能。</li> <li>・カメラをもって家屋の周りを回るだけで撮影でき、比較的解像度が高い写真の撮影が可能。</li> </ul>	

## 応急危険度判定を活用した「全壊」判定

(ヒアリング先)  
輪島市、東京都

(課題)

- ・被害認定調査を見据えた応急危険度判定時の撮影方法
- ・写真から判定する場合の要件整理 等  
(ヒアリング結果)

効果的な点	課題がある点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>住家全体の写真が撮影されている場合、一見して住家全部や一部の階が倒壊、流出等していることによる全壊判定が可能。</u></li> <li>・応急危険度判定で「危険」と判定されたもののうち、約3割を全壊と判定。</li> <li>・応急危険度判定と住家の被害認定で同じシステムを活用することで容易にデータを確認することが可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急危険度判定の調査内容や結果が写真から確認できない場合は、応急危険度判定の活用が困難。</li> <li>・応急危険度判定の調査時の写真撮影は、主に調査ステッカーを貼り付けたことを記録する目的であり、複数枚の写真、住家全体の写真、傾斜を測定した場合にその測定の様子の写真撮影する決まりはない。</li> <li>・<u>1方向の住家全体の写真から、地盤の亀裂や基礎の損傷程度の確認は困難。</u></li> <li>・写真から傾斜があること自体は確認できるが、<u>1/20以上の傾斜があるかの判定は困難。</u></li> <li>・応急危険度判定の調査員は住家の被害認定調査に関する知識が、住家の被害認定調査の調査員は応急危険度判定に関する知識が不足している。</li> </ul>